

庭鳥のいる森

船越素子

その庭で

くるひもくるひもまちわびていた

ウジ虫なのか

ミカドアゲハの幼虫なのか

もはやアヤメも知らぬまに

暮色うつすら

羽化する痛みが桜色にかわる

うっとり夢なんかみてるんじゃないよ

取り返しがつかなくなるよ

記憶のうしろで声がする

胸がどきどきするくらい

蓮っ葉なもんだから

取り返しはつくのかと尋ねたくて

喉の奥で ちよっと Rのかたちをまねる

かなしみのかたちだ

けれど異国のまねはいけないという

ましてやまつりごとにもしたがわぬ

あんちごねいさんのまねなんて

腐った異国趣味だと断罪されるだろう

それではと きざはしをのぼり かしわでをうつ

五十鈴川に架かった橋のたもとで

しようすいしきつてほねとかわになりたい

備長炭で焼かれるまえに

尾ながく 羽白き鶏たちが

目玉を突きに来る

さんくちゅありいな森の向こうに

食い尽くされるよろこびと

食い尽くすよろこびを

その庭で 天秤にかける日々が

待ち焦がれている 森への道形か